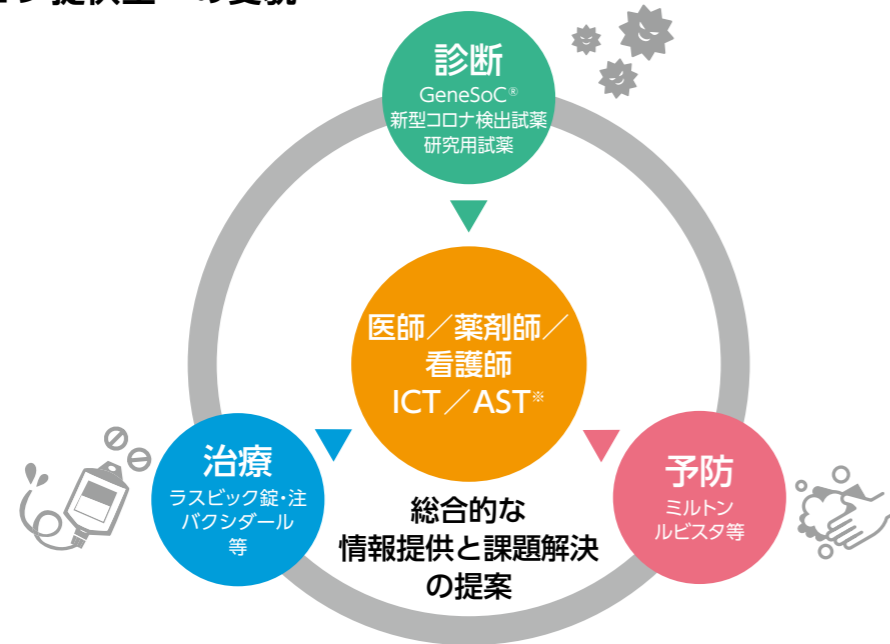


感染症に対する取り組み

世界的な脅威となっているAMR(薬剤耐性)や新型コロナウイルス感染症の拡大等によって、これまで以上に感染症に対する予防、診断、治療へのニーズが高まっています。当社グループでは、医療関係者に対して感染関連領域におけるソリューション提供活動を実施しており、予防・診断・治療の多面的な視点から感染症・感染制御に関する総合的な情報提供や課題解決の提案を行っています。

ソリューション提供型への変貌



※ICT:Infection Control Team(感染対策チーム)
AST: Antimicrobial Stewardship Team(抗菌薬適正使用支援チーム)

適正使用の普及啓発活動を通して感染症治療に貢献する

治療

「ラスビック」

当社グループでは医師、看護師をはじめ、臨床検査技師等を含めたICT、ならびにASTに対して薬剤耐性菌の動向調査や学会サーベイランス事業等への協力、感染症関連学会や研究会等への協力・サポートを介した情報提供活動を推進し、抗微生物薬適正使用の普及啓発活動を進めています。このような中、「ラスビック」は錠剤、注射剤の2剤形により感染症治療に貢献しています。



診断

迅速・的確・簡便に原因微生物を同定し、抗微生物薬の適正使用を実現する 「GeneSoC®」

現在、新型コロナウイルス感染症への対応やAMR対策の観点から正確かつ迅速に原因微生物を同定するための検査設備の拡充が求められています。

マイクロ流路型遺伝子定量装置「GeneSoC®」は迅速・的確・簡便に原因微生物を同定できるリアルタイムPCR法に基づく遺伝子定量装置です。現在「GeneSoC®」を用いた新型コロナウイルス検出試薬「SARS-CoV-2 GeneSoC ER 杏林」「SARS-CoV-2 GeneSoC N2 杏林」、研究用試薬4製品を発売しています。今後、より小型化された「GeneSoC® mini」や簡易核酸抽出試薬の開発を通じて、臨床現場での迅速検査へのさらなる貢献を目指すとともに、体外診断用医薬品の事業化を推進していきます。



予防

医療機関における感染制御に貢献する 「ルビスタ」「ミルトン」

医療機関の環境中には様々な微生物が存在し、近年は環境を介して微生物がヒトからヒトへ伝播することが分かっています。環境からの微生物の伝播の多くは環境表面から手指を通じて起こるため、手指消毒に加え環境表面を清浄に保つことが重要です。

杏林製薬(株)では、医療機関等の感染対策を目的とした、環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」、および消毒剤「ミルトン」をラインアップしており、感染制御に貢献しています。



日本医科大学付属病院
医療安全管理部 感染制御室副室長
感染管理認定看護師 特定看護師
藤田 昌久 先生

日本医科大学付属病院では、2003年より感染対策チームを設置し、感染管理認定看護師が舵取り役となり、医師、薬剤師、臨床検査技師等が日々病院内の感染制御活動に従事しています。これまでの感染管理に加えて、新型コロナウイルス感染防止対応が主となり、通常の感染管理業務の再考が必要となったことから、それに要する時間配分や人員調整が課題となりました。「ルビスタ」は次亜塩素酸ナトリウム1,000ppm相当の除菌効果を有する一方、塩素臭が少なく安定性に優れ、調製がしやすいことから採用し、感染リスクの高い救急外来、血液内科病棟等で幅広く使用しています。また産科、小児科領域では、「ミルトン」を使って器具・機材の浸漬を行っています。杏林製薬(株)にはこれまでと同様に医療現場のニーズにあった製品とエビデンスの提供をお願いしたいと思います。